

語彙研究の現状と展望

손영석*

〈Abstract〉

Current trends and prospects of lexical research

This paper overviews trends and outcomes of articles on lexical research published in the field of Japanese studies in Korea for two years—2019 and 2020. A total of 155 articles are divided into 9 categories, - word meaning, word formation, word type, social styles, diachronic lexicology, socio-cultural lexicology, Japanese language education, quantitative lexicology, and corpus construction, and research trends of each category are summarized.

Among the nine categories, the number of studies on word meaning, word type, and social styles was particularly high, and the Korean-Japanese contrastive study was an active methodology adopted by many studies. In addition, it was observed that the socio-cultural research on lexicon and the study that takes the application to Japanese language education into account were conducted continuously following the previous period of investigation (2017–2018). Approximately 20% of lexicon-related articles adopted the Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese (BCCWJ) that was developed by the National Institute for Japanese Language and Linguistics, and hence a clear demonstration of the BCCWJ's strong influence. Although the high degree of dependence on the BCCWJ is not limited to lexical research in Korea, if comparative studies between the BCCWJ and other research data, or studies based on language data not covered in the BCCWJ are more widely conducted in the future, it is expected to contribute to more balanced and deeper understanding of the Japanese language that is incalculably vast and diverse.

Field : Lexicology

Keywords : Word semantics, Lexical structure, Contrastive researches, Corpus, Current trends

1.はじめに

本稿では、2019年と2020年に韓国の日本語学関連の学術誌で発表された語彙論文を取り上げ、その成果を概観する。対象とした学術誌は、韓国研究財団の主題分類で「日本語と文学」に分けられた〈表1〉の搭載学術誌である。そして、これらの学術誌の中から、単語及び語彙との関連性が高いと判断した論文を155編を選んだ。

* 제주대학교 일어일문학과 조교수, 일본어학

〈表1〉 学術誌別語彙関連論文

No.	学術誌	発行機関	語彙関連 論文数
1	日本研究	高麗大学校グローバル日本研究院	5
2	日本學研究	檀國大学校日本研究所	2
3	日語日文学	大韓日語日文学会	9
4	日本文化研究	東アジア日本学会	4
5	日本學	東国大学校日本学研究所	2
6	日本語文学	日本語文学会	19
7	日本研究	中央大学校日本研究所	2
8	日本研究	韓国外国語大学校日本研究所	3
9	日本近代学研究	韓国日本近代学会	1
10	日本文化學報	韓国日本文化学会	17
11	日本語教育	韓国日本語教育学会	16
12	日本語文學	韓国日本語文学会	9
13	日本語学研究	韓国日本語学会	15
14	日本言語文化	韓国日本言語文化学会	6
15	日本学報	韓国日本学会	7
16	日本語教育研究	韓国日語教育学会	13
17	日語日文学研究	韓国日語日文学会	16
18	翰林日本学	翰林大学校日本学研究所	0
19	比較日本学	漢陽大学校日本学國際比較研究所	9

集めた論文はさらに「語義」「語構成」「語種」「位相」「通時的語彙研究」「社会文化的語彙研究」「日本語教育」「計量的語彙研究」「語彙のデータベース及びコーパス構築」の9分類に分けた。ただ、複数の区分にまたがる研究も多数あり、便宜的な区分であるといえる。以下、今期の動向を区分ごとに述べていくが、紙幅の都合でごく一部しか紹介できないことを予めお断りしておきたい。なお、今期の語彙関連論文のリストは参考文献に掲載したので、こちらも参照していただきたい。

2. 単語の意味(語義)

単語の意味は語彙研究の最も重要なテーマの一つで、関連研究数が一番多かった。特に類義語の研究が目立つ。まず、高草木美奈(2019a)「「幸福な/幸せな/ハッピーな」の一考察-被修飾語のうちモノ名詞を中心に-」と同(2019b)「3つの語種「幸福な/幸せな/ハッピーな」の一考察-被修飾語「コトバ名詞」と「コロロ名詞」を修飾する場合-」は、語種の異なる類義語「幸福/幸せ/ハッピー」の共通点と相違点を分析した。特に被修飾語の意味領域に注目した本研究では、「幸福な」は「食卓」「列車」など物に関する名詞と、「ハッピーな」は「気分」「感じ」など精神に関する名詞と共起しやすい傾向があることな

どを、量的・質的観点から明らかにした。

姜炎完(2019b)「「興味」と「関心」の違いについて-連語とレジスターに注目して-」は、「興味」と「関心」の違いを、単語の意味と使用領域の面から考察した。研究資料としては日本国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、『BCCWJ』)を用い、「興味」と「関心」の間では『BCCWJ』のジャンル(レジスター分布)と、結び付く動詞の種類(連語的な特徴)において顕著な差が見られることを記述した。同(2019c)「단어사용에 나타난 어법기술의 방법-「ルール」「規則」를 예로-」と、同(2020)「유의어 기술의 방법-「開始する」「スタートする」를 예로-」も類義語の研究で、それぞれ「ルール」「規則」と、「開始する」「スタートする」とを対象に、語彙研究におけるコーパスの有効性を実証している。

민승희(2019b)「「おまはん」에 관한 일고찰-『春色梅兒譽美』를 중심으로-」は、江戸時代の作品である『春色梅兒譽美』から「おまはん」の用例を集め、その用法を類義語の「おまへ」と比べている。そして両者とも目上の聞き手に用いる代名詞である点では共通するが、「おまへ」は「だ」体の述語と呼応するのに対し、「おまはん」は主として「ます」体と呼応することなどを明らかにした。

類義語の研究の中には付属語を対象としたものもある。例えば、鈴木梓(2019)「現代日本語の接尾辞「〜くさい」のモダリティ的可能性-コーパス・小説・ツイッターの用例から-」と、同(2020)「現代日本語における接尾辞「〜くさい」の用法-ヒト名詞を中心に-」は、「〜くさい」の意味領域を「〜っぽい」「〜らしい」の場合と比較した。そして近年、話し言葉で「〜くさい」が従来とは異なった使用(「ん、京都ハズレたくさい」など)を見せていることから、文体が話し言葉に近い「ツイッター」なども研究資料に含んでいる。

類義語に続き、多義語の研究も多かった。董素賢(2020)「知覚動詞「聞く」の意味拡張について-補語になる名詞との相関性を中心に-」は、動詞「聞く」の聴覚対象となる名詞句によって、「聞く」の意味が〈知覚〉からどのように変貌するかを考察したものである。そして事例にもとづき、音楽類の名詞句とは〈鑑賞〉の意味へ、さらに発話・思考に関連した名詞句とは〈認知〉へと、その意味を拡張させていく過程を認知意味論の観点から記述した。

澤田信恵(2020a)「韓国文学の日本語翻訳テキストにおける〈보다・見る〉の意味領域に関する考察」は、文学翻訳テキストを資料に「見る」と「보다」の意味領域について考察した。「見る」も「보다」も多義性が極めて高い語であるが、澤田(2020a)は「보다」の方がその意味領域がより広いと見なし、安易に「보다」を「見る」に代替すると誤訳や不自然な訳になり得ることを指摘した。

今回は、語形と意味との関係を扱う敬語研究が目立つ。金美貞(2019)「「あられる」という敬語形式について-国会会議録を資料として-」は、国会会議録検索システムを用いて、10年間の会議録から、「ある」の尊敬語である「おありになる」「おありだ」「あられる」の使用場面を分析した。そしてこのうち、「あられる」は他の語形に比べて〈存在・所有〉の意味を表すとき(「弁護士資格があられる」「経験があられる」など)に頻繁に用いられる傾向があることを明らかにした。

魚秀禎(2019)「6つのジャンルにおける尊敬語の種類と語形-『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて-」も敬語表現を対象としている。『BCCWJ』から「来る」の尊敬語と、「来る」に補助動詞(いただく/くださる)が付いた用例を集め、その意味を「見える系」「お運び系」「お越し系」「いらっしゃる系」「いらした系」「おいで系」「来られる系」に7分類し、各語形と意味が、『BCCWJ』のどのジャンル(雑誌、書籍、知恵袋、ブログ、国会会議録、広報紙)に頻出するかを分析した。

その他、慣用句の意味に関する研究もある。권익호·홍민희(2019)「신체어휘의 관용어에 관한 인지언어

학적 고찰 「기슴(胸)·배(腹)를 중심으로」は、「胸」または「腹」を含む慣用表現(「기슴이 넓다, 「胸が詰まる」, 「배를 두들기다, 「腹が立つ」など)を、認知言語学の観点から考察した。例えば기슴이 넓다と「胸が詰まる」ならば、Lakoff & Johnsonの理論にもとづき、その起点領域(source domain)をそれぞれ「容器」と「穴」とに分類した後、各起点領域が、「嬉しさ」と「悲しさ」のうちどちらの感情と関連するかについて考察した。

3. 語構成

形態素による単語の組み立てを研究する語構成論では複合動詞の研究が多かった。まず金光成(2020)「複合動詞の用法と文脈に関する意味中心の研究-物理的な症状を表す複合動詞を中心に-」は、物理的な症状を表す複合動詞の意味カテゴリーを、その使用文脈から「外的症状関連」「内的症状関連」「痛み関連」とに分け、それぞれのカテゴリーに属する単語の特徴を分析した。例えば外的病状を表す複合動詞の後項は「~出す」「~果てる」などが多い。そして、同(2019)「「名詞+動詞」型の複合動詞の語形成に関する認知意味論的分析-「名詞+づける」の事例分析を中心に-」は、「動詞(連用形)+動詞」型に比べ、従来、研究が少なかった「名詞+動詞」型を対象としている。中でも、生産性の高い「名詞+づける」(「勇気づける」「義務づける」など)を対象に、フレーム意味論の枠組みから前項(名詞)と後項(づける)の対応関係を分析した。

複合動詞以外の複合語研究もある。千昊載(2019)「日本の飲食名の統語構造」は、日本の代表的な飲食を中心に、複合名詞の語構成について考察した。例えば「納豆+うどん」と「きつね+うどん」とでは、前項名詞(「納豆」「きつね」と)と後項名詞(「うどん」と)の関係が異なるといえるが、その関係を10分類し語構成パターンを類型化した。

한규안(2020a)「「~にくい」「~づらい」「~がたい」의 의미·용법 고찰」は、「~にくい」「~づらい」「~がたい」に関する研究で、特に結び付く動詞の種類に注目している。例えば先行研究では「~づらい」は無意志動詞と結び付くことができないと指摘するが、한규안(2020a)は『BCCWJ』から集めた用例をもとに必ずしもそうでないことを実証した。

そして、権裕羅(2020)「感情・感覚形容詞の新しいミ形について-Twitter上の使用に注目して-」は、「古本屋近くはないから羨ましみがつよい。」など新しい「~み」が付いた派生語を分析した。調査対象は、三日間分のツイート(Twitter)である。そして、「嬉しい、つらい、眠い」など主体の感情・感覚を表す形容詞は新しいミ形になりやすいが、「恐ろしい、冷たい、熱い」など対象の性質を表す形容詞は新しいミ形になりにくいことを、明らかにした。

語構成の研究には漢語を対象としたものもある、신민철(2019)「韓國語와 日本語의 漢字語 比較-국어 사전 수록 한자어를 대상으로-」は、韓国語と日本語の国語辞典における漢語を、共通漢語と非共通漢語とに分け、それぞれの特徴を分析した。신민철(2019)によると、共通漢語のうち、三字以上(「登龍門」「摩天樓」など)は、一部を除きその殆んどが二字漢語を基本とする派生語が複合語である。

4. 語種

語種では、外来語の研究が多かった。まず、林廷修(2020)「日韓の新聞からみた共通外来語の使用実態について-計量的・文法的側面から-」は、韓国と日本の新聞を対象に外来語の受容事態を分析した。新聞における外来語全体の出現頻度は両言語間であまり変わらないが、個別語の出現頻度を比べると、韓国の新聞では上位一部の外来語のみが集中して使われる傾向が強い。

朴英淑・佐藤亜里紗(2019)「有島武郎作品に見る外来語-食関連単語を中心に-」は、有島武郎の作品の中で使われた食関連の外来語に関する研究である。各単語を「野菜および果物」「菓子」「飲料」などのカテゴリーに分類した上で、その流入時期や流入元となる言語を考慮しつつ、有島作品の中の外来語のゆれについても考察した。

外来語以外に漢語の研究も見られる。장원재(2019b)「병렬코퍼스 활용과 근대 한일 어휘 대조연구의 확장」は、韓日の字順逆転漢語を研究対象とした。字順逆転漢語とは、字順が逆転された類義漢語を意味する。「威脅-脅威」はその一例で、19世紀末まで両者は共存していたが、今は韓国語では「威脅」が、日本語では「脅威」が生き残っている。장원재(2019b)ではその過程を分析している。

そして姜盛文(2020)「『文章仮字用格』の漢語について」は、農学者の大蔵永常が著した語学書『文章仮字用格』における漢語を考察した。『文章仮字用格』は、他の仮名遣書と違って、学問をする人より一般人を対象としている。にもかかわらず、仮名遣書の中で最も漢語の多い資料の一つであるが、姜盛文(2020)はその理由を『文章仮字用格』の収録漢語に着目し模索した。

崔主利(2019)「略語の対照-日本語辞典と若者語を中心に-」は、日本の国語辞典における略語と、『現代用語の基礎知識』(2000-2012年版)における「若者語」の略語を比較したものである。特に略語の語種を取り上げ、国語辞典に収録された略語は漢語が多いが、『現代用語の基礎知識』には外来語が最も多いことなど、調査資料間の違いを指摘した。

5. 位相

共通の意味を表す単語でも、さまざまな条件(使い手、文章や場面など)によって違ったものになるときがある。こうした現象を意味する位相の分野でも、多くの研究が行われた。魚秀禎(2020)「BCCWJのプログレジスターにおける話し言葉と書き言葉の諸相」は、『BCCWJ』のブログを資料に、書き言葉と話し言葉のどちらかでのみ用いられる傾向が強い類義語のペア(「たぶん」-「おそらく」、「やはり」-「やっぱり」など)を調査した。そして、各ペアの出現頻度を比較した結果をもとに、ブログでは話し言葉も多く使われるため、ブログを書き言葉の資料として扱うことには注意が必要であると主張した。

윤상한(2020)「일본어계 외래어의 위상에 관한 비교 연구-건설 전문용어를 중심으로-」は、韓国の建設現場でよく使われる日本語由来の外来語(「함마」「텐조」「이파」など)の位相差について考察したものである。調査手法には、一般人と建設業関係者を対象とした意識調査が選ばれている。通常、日本語由来の外来語はマイナ斯的なイメージが強いが、建設業関係者の間では、業界の人と一般人とを、熟練した技術者と初心者とを区別するパラメータとして、日本語由来の外来語が用いられていることを明らかにした。

他に、新語・流行語に関する研究もあった。瀬楽亨(2019)「日本語の若者言葉の理論的分析に向けて」は、ぼかし言葉の一つである「～系」を対象に、若者言葉の理論的分析を試みたものである。従来「～系」は、主として「おじさん系」など普通名詞に付き、典型的ではないもののそのカテゴリーに属すると見なし得る人や物を指し示すときに用いられてきたが、「まじハマった系」「課題発表の準備しなければならぬ系」など動詞(句)と結び付く用法もあることを指摘し、その意味機能を一般言語学の attenuation の観点から記述した。

盧皇希(2019)「『若者ことば』의 지속성에 관한 고찰-『現代用語の基礎知識』을 중심으로-」は「若者ことば」を扱っている。『現代用語の基礎知識』の2007年版と2017年版とを資料とした本研究では、2007年度に比べ、2017年度の「若者ことば」には人の感情や行動を表す語(「豆腐メンタル」「ワケテカ」など)が多く含まれていることを指摘した。

6. 通時的な語彙研究

通時的な語彙研究では、個別単語の意味・用法の変遷に関する研究が大半であった。まず、李知殷(2019)「若者ことば「鬼」の史的変遷」は、近年「鬼面白い本」のように接頭辞としても用いられる「鬼」の意味用法の変化過程について考察した。上代から現代までの変化過程を幅広く捉えているところが特徴的である。

そして大谷鉄平(2019b)「流行「後」の流行語「ジュリアナ」「ファジィ」の流通について-死語・廃語研究に向けて-」は、流行語の流行「後」に焦点を当てた研究である。雑誌記事の見出しから、流行語「ジュリアナ」と「ファジィ」の使用実態を通時的に調べ、その結果を用いて「流行が終わった単語は『死語』であり、死語は『廃語』である」という従来の先入観を覆している。

また林禎映(2020)「副詞「たかだか」「たかが」の成立と展開」は、類義語「たかだか」と「たかが」の意味変化過程を比較した。通時的に見ると、「たかだか」のほうが「たかが」より副詞化の例は先行すること、「それぐらいの程度で、たいしたことではない」といった否定的評価を表す例は「たかだか」より「たかが」のほうが先行することなどが記述されている。

語彙の変遷に注目した研究には、박선옥(2019)「혼종어에 나타나는 중세시대 조어의 제약상」がある。中世の文献である『平家物語』『太平記』『日葡辞書』から混種語を取り上げ、その品詞・語構成・意味上の特徴を分析した。박선옥(2019)によると、同じ混種語でも、室町初期の『太平記』には「和語+漢語」(大塔、鞍具足など)に比べて「漢語+和語」(疊楯、入道首など)の方が圧倒的に多く登場するが、室町末期の『日葡辞書』からはこのような差は殆んど見られないという。

その他、金晞泳(2019a)「現代日本語と現代韓国語の「若者言葉」と「打ち言葉」と、同(2020b)「現代日本語の「打ち言葉」の定義と特徴-Twitterのクローリングによる「打ち言葉」の分析と共に-」は、「打ち言葉」に関するものである。打ち言葉とは、「ネットワーク上のデジタル媒体で現れるデジタル文字入力によるチャットやテキストの言葉」を意味する。金晞泳(2019a)では、声に伴うパラ言語などが使えない状況下で、どのような文字の組み合わせや絵文字・スタンプを用いてSNSで情報を伝えるかを分析した。その結果を踏まえ、金晞泳(2020b)は代表的なSNSである「ツイッター(Twitter)」から2006-2020年間の「打ち言葉」を検索し、話し言葉や書き言葉とは異なる、打ち言葉の用法とその特徴を

通時的に考察している。

7. 社会文化的な語彙研究

社会文化的な語彙研究も、前期に続き、数多く見られる。李丹・李恩美(2019)「ユーキャン新語・流行語大賞に見られる日本の新語・流行語の社会・文化的な特徴-話題を中心に-」はその典型例で、新語・流行語が当時の社会・文化を反映するものであることを、2006-2017年までの通時的調査から明らかにした。例えば、新たな内閣が成立した年度には政治に関わる単語が、天文学における大発見があった年度には科学(教育)分野での単語が、高い確率で新語・流行語となるということを具体的な数値で示している。

김종태・송병권(2019)「일본 선진국 담론의 개념과 특징 : 일본신문 사설 분석을 중심으로」は、日本の『朝日新聞』と『読売新聞』の社説から「先進国」と「途上国」の両単語を取り上げ、その指示対象と文脈を分析した。김종태・송병권(2019)によると、両新聞で、韓国は先進国に規定されることが多い。そして、中国は途上国に規定されながらもその国際的な影響力から大国として扱われている。単語というものが、社会の見方をどのように作り上げるかを具体的な事例にもとづいて論じた興味深い論文である。

李宰錫(2019)「男性一人称〈ボク〉と〈オレ〉のキャラクター属性」は、1970年代前後の漫画とゲームを資料に、「ボク」と「オレ」の使い分けを分析した。1970年代以前まで男性を指す一人称代名詞として広く用いられた「ボク」が、70年代以降、相対的に弱い男性らしさを表すことになった過程などを事例に沿って詳しく記述している。

社会文化的な語彙研究の中には韓国語と日本語を対照したものもあった。中坂富美子・李徳培(2019)「韓日呼称接尾辞「씨」と「氏」の比較-新聞記事の用例を中心に-」は、韓国語の「~씨」と日本語の「氏」を比較したものである。韓国語で「姓+씨」は社会的地位の高い人物には使えないが、日本語で「姓+氏」は首脳や閣僚などに対しても用いることができ、むしろ格式のある表現であるという印象まである。呼称の研究でありながら、新聞記事を資料としている点でオリジナリティーが高い。

김혜연(2020)「공기하는 의미 요소의 특징에서 본 「목욕」의 한일 이미지 대조연구-텍스트마이닝 결과를 바탕으로-」は、韓国語の「목욕」と日本語の「風呂」とよく共起する単語を比べた。例えば、「목욕」は「자주」、「매일」などと共に用いられる傾向がある。それに対し、「風呂」は頻度を表す副詞よりは「ゆっくり」「ゆったり」などと共起する場合が多く、同じ「水(お湯)で体を洗う」行為でも、両国間でそのイメージが異なることを記述した。

その他に양민호(2019b)「언어전파로 살펴본 해역언어학적 어휘 연구-한국의 박래어와 일본 진출 외행어를 중심으로-」は、韓国と日本の交流によって使われ始まった語彙(「사이다」や「고뿌」など)を対象に言語地理学の観点から東北アジア海域の言語基層文化を観察している。

8. 日本語教育

日本語教育と言語習得の分野で、特に語彙に注目した研究を紹介する。まず、김시은(2019b)「일본어

상급 학습자와 모어화자의 작문 어휘 비교-단어의 공통도를 중심으로-)は、日本語上級学習者の作文と母語話者の作文を比較したものである。特に作文に使われた語彙の種類に注目し、学習者は普遍性の高い単語を好んで使うこと、学習者は母語話者に比べて使用語彙の多様性が低いことなどを「共通度」という概念を用いて論じた。

황영희(2019)「일본어 어휘능력의 중단적 변화에 관한 계량적 고찰」は、日本で生活する中で日本語を身につけた後、韓国へ帰国した10代の韓国人姉妹を対象に、時間の流れによる日本語使用語彙の変化を観察した。そして、その摩滅の様相を、植民地統治下で日本語を習得した韓国人高年層の場合と比較し考察している。

以上の、学習者の語彙運用能力に関する研究以外に、日本語教科書(教材を含む)における語彙を分析した研究事例もある。이윤정(2019b)「기초일본어 교재에서의 명사 어휘 분석 연구」は、韓国内で広く使われている3種の基礎日本語教材から名詞類を取り出し、各教材でどの意味領域の単語がどれくらいの頻度で出現するかを分析した。

王蕊・金英兒(2020)「中国の大学の日本語教科書におけるオノマトペの分析-新日本語能力試験と比較して-」は、オノマトペ(擬音語・擬態語)を対象としている。中国で出版された日本語教科書と日本語能力試験の問題集からオノマトペの用例を集め、その種類と出現頻度を分析した。이윤정(2019b)も王蕊・金英兒(2020)も、単語ごとに出現頻度と出典を提示しているので教育現場で有効に活用できる。

9. 計量的語彙研究

ここでは、マクロの視点から語彙を捉え、その使用実態を計量的に調査・分析した研究を紹介する。이미숙(2019)「2019년 현재 사용 중인 한·일 고등학교 국어교과서 어휘 연구」は、韓国と日本の高校国語教科書で使われた語彙を対象に、その意味分野別の分布をまとめた。その分析結果を見ると、韓国の教科書では〈家族〉〈兄弟〉〈親戚〉関連の語が、日本の教科書では〈男女〉〈老若〉〈自他〉関連の語が頻出する傾向がある。またこうした傾向を両国の文化と関連づけて考察するところが興味深い。

そして윤혜인・이미숙(2020)「현용 한·일 고등학교 국어교과서 어휘의 어종 및 어구성 연구」も、韓国と日本の高校国語教科書で使われた語彙を対象にした研究である。特に、語彙の意味分野別に、語種・語構成がどのように異なるかを詳しく分析している。

이윤정(2019a)「일본 IT분야 어휘분석연구-『基本情報技術者試験』의 10년간 기출문제를 중심으로-」は、IT関連の資格試験『基本情報技術者試験』で問題に用いられた語彙を計量的に分析した。日本国語研究所(1984)『日本語教育のための基本語彙調査』の収録語彙と比較させ、基本語彙を除きIT分野の業務に必要な語彙のみを選別することを試みている。

장원재(2020)「한일 고빈도 어휘의 특징에 관한 일고찰」は、韓国語と日本語のカバー率に関する研究である。カバー率とは、使用頻度の高い順に単語を並べた際、一定の上位語までの累積使用率で全体の何パーセントをカバーできるかを数値で表したものである。장원재(2016)に続き、従来の関連研究には算出上問題があることを指摘し、調査単位の長さなど条件を整えれば、韓国語と日本語のカバー率は大きく変わらないことを、語種・品詞・意味の面から明らかにした。

10. 語彙のデータベース及びコーパス構築

最後に、語彙研究とともに、研究に活用できるデータベース及びコーパスを自作した事例を二つほど紹介する。李忠奎(2019c)「格パターンによる「^レ込む」の低位分類 - 韓国学習者を念頭に置いた試み -」は、日本語の複合動詞とそれに対応する韓国語の副詞との関係について考察した。日本語の複合動詞の中には、「生き残る」と'살아남다'のように1対1に対応するものもあれば、「追い続ける」と'계속 쫓다'などそうでないものもある。李忠奎(2019c)は、日本語教育への応用をも考慮し、JPT・JLPT日本語能力試験対策用の語彙集と問題集、日韓対訳文庫・会話教材など62冊の資料から合計13,693例の複合動詞を集めて、複合動詞のデータベースを構築している。そして、そのデータベースを用いて、「追い続ける」など1対1に対応しない複合動詞を4つの類型に分け、各類型の特徴を見出した。

장원재(2019b)「명렬코퍼스 활용과 근대 한일 어휘 대조연구의 확장」は、19世紀末における韓日語彙の相違を綿密に記述するためには、並列コーパスの構築とそのコーパスに基づく対照研究が必要であるということを描した。そして、自ら構築を試みた並列コーパスを用いて並列コーパス無しでは行いきにくい研究事例を紹介し、今後の対照研究のためには、文単位のみならず単語単位の並列コーパスが必要であることを主張している。

11. おわりに

以上、2019年から2020年まで発表された語彙関連論文を取り上げ、研究の成果を概観した。全部で155編の論文を、「語義」「語構成」「語種」「位相」「通時的語彙研究」「社会文化的語彙研究」「日本語教育」「計量的語彙研究」「語彙のデータベース及びコーパス構築」に9分類し、その動向を見てきた。今期は、語義(特に、類義語)、語種、位相の研究が盛んで、前期(2017-2018年)に続いて語彙に関する社会文化的研究が活発に行われた。そして日本語と他の言語(主として韓国語)との対照研究方法が多く採られ、その数は本稿で扱った論文の約3割に当たる。なお、全論文の2割近くが研究資料として日本国語研究所の『BCCWJ』を利用した。『BCCWJ』が最長1971年から2005年までの現代書き言葉のコーパスであることから、現代日本語はこの時期の書き言葉を中心に研究が行われているとも解釈できる。

『BCCWJ』の利用率が高いことは、韓国の語彙研究に限った傾向ではない。2019-2020年度の日本における語彙研究の動向をまとめた市村太郎(2020)でも同じ傾向が指摘されている。『BCCWJ』が完成度の高いコーパスであり、日本語研究に多大に貢献していることに疑いはないが、数えきれないぐらい膨大で多様な日本語をより十全に把握するためには、『BCCWJ』と他の研究資料とを比較した研究、あるいは『BCCWJ』にはない言語データにもとづく研究も今後ますます盛んになる必要があると考える。

【参考文献】

- 姜炅完(2019a)「語彙研究の現状と展望」『日本語学研究』 59 韓国日本語学会 pp.51-66
 _____(2019b)「「興味」と「関心」の違いについて—連語とレジスターに注目して—」『日本語文化』 48 韓国日本語文化学会 pp.7-20

- _____(2019c) 「단어사용에 나타난 어법기술의 방법- 「룰」 「規則」를 예로-」 『日語日文学研究』 111 韓国日語日文学会 pp.3-20
- _____(2020) 「유의어 기술의 방법- 「開始する」 「スタートする」를 예로-」 『日語日文学研究』 115 韓国日語日文学会 pp.173-192
- 姜盛文(2019) 「『尚古仮字用格』と『増補正誤仮名遣』の関係について-共通に見られる漢語に注目して-」 『日本学報』 121 韓国日本学会 pp.63-82
- _____(2020) 「『文章仮字用格』の漢語について」 『日本研究』 33 高麗大校グローバル日本研究院 pp.243-266
- 郭銀心(2019) 「動物キャラ語尾に関する日韓対照研究-SNSに見られる犬と猫のキャラクターを中心に-」 『日本言語文化』 48 韓国日本言語文化学会 pp.21-44
- 權景愛(2020) 「韓日の近代文献に見られる「新語」と「外来語」の概念-範囲と用語の分化過程について-」 『日語日文学研究』 114 韓国日語日文学会 pp.137-158
- 權城(2019) 「日韓対照研究の一考察- 「だろう」 「かも(もしれない)」 「はずだ」を対象に-」 『日本文化學報』 82 韓国日本文化学会 pp.47-64
- _____(2020a) 「韓国日本語学習者のための類義語研究- 「など」 「なんか」 「なんて」を対象に-」 『日本語文學』 85 韓国日本語文学会 pp.3-21
- _____(2020b) 「韓国日本語学習者のための類義語対照研究- 「など」 「なんか」 「なんて」と韓国語形式を中心に-」 『日本語文學』 86 韓国日本語文学会 pp.81-98
- 權裕羅(2020) 「感情・感覚形容詞の新しいミ形について-Twitter上の使用に注目して-」 『日本語教育』 92 韓国日本語教育学会 pp.65-77
- 권익호·홍민희(2019) 「신체어휘의 관용어에 관한 인지언어학적 고찰 -가슴(胸)·배(腹)를 중심으로-」 『日本研究』 51 中央大校日本研究所 pp.7-27
- 琴鍾愛(2020) 「若年層における「ホラ」の使用傾向-東京地域と大阪地域の比較を中心に-」 『日本文化學報』 84 韓国日本文化学会 pp.205-219
- 金庚洙(2019) 「相對名詞の語彙的なアスペクトの関係-韓国語の「전」と日本語の「前(マエ/ゼン)」をめぐる-」 『日本言語文化』 46 韓国日本言語文化学会 pp.59-74
- 김계연(2019) 「한·일 관용표현 대조고찰 -주관어휘를 중심으로-」 『日本研究』 81 韓國外國語大校日本研究所 pp.157-175
- 金光成(2019) 「「名詞+動詞」型の複合動詞の語形成に関する認知意味論的分析- 「名詞+づける」の事例分析を中心に-」 『日語日文学』 81 大韓日語日文学会 pp.169-184
- _____(2020) 「複合動詞の用法と文脈に関する意味中心の研究-物理的な症状を表す複合動詞を中心に-」 『日本文化研究』 75 東アジア日本学会 pp.99-123
- 김나영(2020) 「『日本書紀』에 보이는 생물을 헤아리는 조수사 고찰」 『日語日文学』 88 大韓日語日文学会 pp.245-264
- 김도은(2019) 「日·韓 動詞의 多義語의 副詞적인 표현에 관한 研究-遊ぶ와 놀다를 中心으로-」 『日本文化學報』 82 韓国日本文化学会 pp.65-82
- 金美貞(2019) 「「あられる」という敬語形式について-国会會議録を資料として-」 『日本語文學』 84 日本語文学会 pp.1-22
- 김선영(2019a) 「일본 SE(System Engineer)분야의 어휘 분석 연구」 『日本語文學』 84 日本語文学会 pp.23-49
- _____(2019b) 「일본 비즈니스 관련 어휘 습득 연구-한국인일본어학습자를 대상으로-」 『日本文化學報』 80 韓国日本文化学会 pp.45-63

- _____(2019c) 「일본 IT 프로그래밍관련 어휘 분석 연구」 『日本語文学』 86 日本語文学会 pp.1-24
- _____(2019d) 「접객 서비스 관련 어휘 연구- 「레스토랑서비스技能檢定」 기출문제를 대상으로-」 『日本文化學報』 83 韓国日本文化学会 pp.65-81
- _____(2020) 「일본 기계 관련 어휘 분석 연구-일본 『金型新聞』을 대상으로-」 『日本語文学』 89 日本語文学会 pp.1-25
- 金秀東(2020a) 「言語類型論からみた日韓複合動詞の語構造分析- 「名詞+動詞」型を中心に-」 『日語日文学研究』 113 韓国日語日文学会 pp.89-116
- _____(2020b) 「日韓複合動詞組み合わせ特徴の対照分析-後項動詞 「つける・붙이다」を中心に-」 『日語日文学』 87 大韓日語日文学会 pp.153-168
- 김시은(2019a) 「일본어 상급 학습자의 복합어 운용 실태 연구-모어화자와의 비교를 통하여-」 『日本語教育研究』 47 韓国日語教育学会 pp.21-35
- _____(2019b) 「일본어 상급 학습자와 모어화자의 작문 어휘 비교-단어의 공통도를 중심으로-」 『日本語学研究』 61 韓国日本語学会 pp.21-35
- 金愛蘭(2018) 「語彙(理論・現代)」 『日本語の研究』 14-3 日本語学会 pp.33-40
- 金英兒(2019) 「「インタラクティブ(Interactive) 語彙分析分類法」を活用した 日本語の副詞教育の方案の模索-副詞 「やっと」を中心に-」 『日本語教育』 90 韓国日本語教育学会 pp.1-14
- 金嘯泳(2019a) 「現代日本語と現代韓国語の 「若者言葉」と 「打ち言葉」」 『日本學研究』 57 檀國大學校日本研究所 pp.183-204
- _____(2019b) 「近代日本語の 「一的」의近代韓国語における受容: 「一的」의語構成の原理を中心に」 『日本研究』 32 高麗大學校グローバル日本研究院 pp.227-253
- _____(2020a) 「텍스트마이닝 기법을 활용한 일본 미디어의 한국 뉴스의 감정 추이에 대한 분석-과이전을 활용한 단어감정극성대응표 분석기법의 수행을 통해-」 『日本語学研究』 65 韓国日本語学会 pp.25-43
- _____(2020b) 「現代日本語の 「打ち言葉」의定義と特徴- 「Twitter」의클로어링による 「打ち言葉」의分析と共に-」 『比較日本学』 49 漢陽大學校日本學國際比較研究所 pp.305-324
- 김종태·송병권(2019) 「일본 선진국 담론의 개념과 특징 : 일본신문 사설 분석을 중심으로」 『日本研究』 31 高麗大學校글로벌日本研究院 pp.239-264
- 김현수(2019) 「聽覺과 관련된 한일 慣用句의미형성의 양상 고찰- [귀/耳]를 포함하는 慣用句를 중심으로-」 『日語日文学』 82 大韓日語日文学会 pp.149-166
- 김혜연(2020) 「공기하는 의미 요소의 특징에서 본 「목욕」의 한일 이미지 대조연구-텍스트마이닝 결과를 바탕으로-」 『日本語学研究』 63 韓国日本語学会 pp.153-167
- 羅工洙(2019) 「日本の近世・近代における中国語の 「喫驚・吃驚」의受容と展開」 『比較日本学』 47 漢陽大學校日本學國際比較研究所 pp.219-242
- 盧皇希(2019) 「 「若者ことば」의 지속성에 관한 고찰- 『現代用語의基礎知識』을 중심으로-」 『日本學』 48 東國大學校日本學研究所 pp.167-187
- _____.張根壽 (2019) 「 『現代用語의基礎知識』을 통해 본 「若者ことば」의 사용양상」 『比較日本学』 45 漢陽大學校日本學國際比較研究所 pp.207-222
- 都基禎(2020) 「 『とはずがたり』의 敬語研究- 「參る」를 중심으로-」 『日本文化學報』 87 韓国日本文化学会 pp.225-239
- 董素賢(2019) 「日本語動詞 「見る」と韓国語動詞 「보다」의對照研究-語彙的意味と構文的要因の相關性を中心に-」 『日本語教育研究』 48 韓国日語教育学会 pp.75-94
- _____(2020) 「知覺動詞 「聞く」의意味拡張について-補語になる名詞との相關性を中心に-」 『日本語

- 文化』 51 韓国日本言語文化学会 pp.7-32
- 민병찬(2020) 「『全一道人』의 일본어에 관한 일고찰-(欲遣繼妻)에 대한 번역어를 중심으로-」 『比較日本学』 48 漢陽大学校日本学國際比較研究所 pp.383-400
- 민승희(2019a) 「근세전기 ‘そなた’와 그 주변어에 관한 고찰」 『日本文化學報』 82 韓国日本文化学会 pp.123-140
- _____ (2019b) 「『おまはん』에 관한 일고찰-『春色梅兒譽美』를 중심으로-」 『日語日文学研究』 110 韓国日語日文学会 pp.63-81
- 박노순(2019a) 「코스피 기반 유의 동사의 콜로케이션 분석-「果たす」와 「尽くす」를 예로-」 『日本語文学』 85 日本語文学会 pp.21-40
- _____ (2019b) 「고빈도 동사의 콜로케이션 분석-일본어 능력시험 어휘를 중심으로-」 『日本学報』 119 韓国日本学会 pp.1-20
- _____ (2020) 「『願う』 「望む」의 콜로케이션 분석」 『日本文化研究』 74 東アジア日本学会 pp.91-108
- 박선옥(2019) 「훈중어에 나타나는 중세시대 조어의 제약상」 『比較日本学』 47 漢陽大学校日本学國際比較研究所 pp.243-264
- 朴英淑·佐藤亜里紗(2019) 「有島武郎作品に見る外来語-食関連単語を中心に-」 『日本学報』 119 韓国日本学会 pp.21-36
- 朴智娟(2019) 「日本語オノマトペの名詞用法に関する意味的研究-副詞・動詞・形容動詞が名詞用法として機能する場合-」 『日本學研究』 58 檀國大学校日本研究所 pp.201-224
- 박현수(2019) 「로지스틱 회귀분석을 이용한 유의어 「大事」와 「大切」의 사용 양상 비교」 『日本語文学』 84 日本語文学会 pp.79-98
- 朴孝庚(2020) 「『吾輩は猫である』における人称詞の一考察」 『比較日本学』 49 漢陽大学校日本学國際比較研究所 pp.343-366
- 白同善(2019) 「日本語検定に活用される敬語の実態分析」 『日本文化研究』 71 東アジア日本学会 pp.175-196
- 白鍾讚(2020) 「附着の意味を表す日本語複合動詞に関する研究-「~つく」「~つける」が取る前項動詞を中心に-」 『日語日文学研究』 113 韓国日語日文学会 pp.67-88
- 변상숙(2019) 「근대 일본과 한국의 『레미제라블』에 대한 번역과 변안의 어휘 비교 연구-고유명사와 외래어·외국어 표기를 중심으로-」 『日本語教育』 89 韓国日本語教育学会 pp.11-24
- 徐順玟(2019) 「位置づけの意味を表す「置く」と「두다」「놓다」의意味対照-認知言語学の意味拡張の観点から-」 『日語日文学』 82 大韓日語日文学会 pp.167-189
- 송연희(2019) 「감정형용사「うれしい」의 사용양상」 『日語日文学研究』 110 韓国日語日文学会 pp.449-462
- 신민철(2019) 「韓國語와 日本語의 漢字語 比較-국어사전 수록 한자어를 대상으로-」 『日本語文學』 80 韓国日本語文学会 pp.103-119
- 신웅철(2020) 「한국어와 일본어의 同綴 한자어 비교 연구-국립국어원 『한국어-일본어 학습사전』의표제어와 대역어를 중심으로-」 『日語日文学研究』 115 韓国日語日文学会 pp.153-172
- 安熙貞(2019) 「日本書紀「与」と「及」の用字法研究」 『日本文化學報』 83 韓国日本文化学会 pp.117-142
- 양민호(2019a) 「수산물 명칭 속에 나타난 잔존일본어에 관한 연구」 『日本文化學報』 82 韓国日本文化学会 pp.185-198
- _____ (2019b) 「언어전파로 살펴본 해역언어학적 어휘 연구-한국의 박래어와 일본 진출 외행어를 중심으로-」 『日語日文学研究』 110 韓国日語日文学会 pp.103-119
- _____ (2019c) 「한국과 일본의 출세어(出世魚) 명칭에 관한 대조연구」 『日本語学研究』 61 韓国日本語学会 pp.53-70

- _____(2020) 「일본어 놀이 어휘를 통해 살펴본 해석언어학 연구」 『日語日文学研究』 113 韓国日語日文学会 pp.25-43
- 양정순(2020a) 「심리동사 ‘驚く’에 관한 번역양상-夏目漱石의 메이지기 작품의 일한·일영 번역을 중심으로-」 『日本語教育研究』 50 韓国日語教育学会 pp.179-194
- _____(2020b) 「소설 ころ에 나타난 감정표현 ‘恥’에 관한 번역 양상 : 한국어 번역 작품과 영어 번역 작품을 중심으로」 『日本語教育研究』 52 韓国日語教育学会 pp.127-141
- 魚秀禎(2019) 「6つのジャンルにおける尊敬語の種類と語形-『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて-」 『日本語学』 87 日本語学会 pp.131-149
- _____(2020) 「BCCWJのプログレジスタ-における話し言葉と書き言葉の諸相」 『日本語学』 89 日本語学会 pp.51-69
- 오수문(2019) 「外来語의 標準化에 關する一考察-最近의 外来語多用化의 分析-」 『日本文化學報』 81 韓国日本文化学会 pp.99-115
- 王蕊·金英兒(2020) 「中国の大学の日本語教科書におけるオノマトペの分析-新日本語能力試験と比較して-」 『日本語学』 88 日本語学会 pp.77-96
- 劉鑿眞(2020) 「口語表現に關する日韓対照一考察-「ていうか」と韓国語との対応關係-」 『日語日文学』 87 大韓日語日文学会 pp.117-133
- 유은성(2019) 「한·일 동사 연어의 대조연구 - 「안다/품다」와 「イダク/カカエル」를 중심으로-」 『日本研究』 80 韓國外国語大学校日本研究所 pp.163-190
- 윤상한(2020) 「일본어계 외래어의 위상에 관한 비교 연구-건설 전문용어를 중심으로-」 『日本學』 51 東国大学校日本学研究所 pp.103-129
- 윤영민·송재영(2019) 「현대 한일어 3인칭 여성 대명사 ‘그녀’와 ‘彼女’ 연구」 『日本語教育研究』 46 韓国日語教育学会 pp.89-106
- 윤혜인·이미숙(2019) 「한국과 일본의 중·고등학교 국어교과서 어휘의 어구성 및 어종 연구」 『日本學報』 118 韓國日本学会 pp.69-90
- _____._____(2020) 「현용 한·일 고등학교 국어교과서 어휘의 어종 및 어구성 연구」 『日本語教育研究』 52 韓国日語教育学会 pp.143-162
- 은수희(2019) 「한·일 양언어의 가열조리동사 대조연구-의미적인 측면을 중심으로-」 『日本語教育研究』 46 韓国日語教育学会 pp.107-122
- _____(2020) 「한·일 양언어의 비가열 조리동사 대조연구-혼합과 발효를 중심으로-」 『日本語学研究』 64 韓國日本語学会 pp.137-154
- 李丹·李恩美(2019) 「ユーキャン新語・流行語大賞に見られる 日本の新語・流行語の社会・文化的な特徴-話題を中心に-」 『日本語学研究』 60 韓国日本語学会 pp.53-68
- 이덕배·정보희(2019) 「30·40대 한국인의 언어생활 속 일본식 외래어-사용실태와 인식을 중심으로-」 『日本語教育』 88 韓国日本語教育学会 pp.55-68
- _____.안동미(2019) 「50·60대 한국인의 일본식 외래어 사용실태 및 인식」 『日本語教育』 89 韓国日本語教育学会 pp.25-41
- _____.이연희(2019) 「10·20대 한국인의 일본식 외래어 사용실태 및 인식」 『日本語教育』 90 韓国日本語教育学会 pp.109-122
- 이덕영(2020) 「TV 드라마에서의 인명 사용에 관한 한일언어 비교연구-폴 네임을 중심으로-」 『日本語学研究』 66 韓國日本語学会 pp.85-99
- 이미숙(2019) 「2019년 현재 사용 중인 한·일 고등학교 국어교과서 어휘 연구」 『日本語教育研究』 49 韓国日

- 語教育学会 pp.89-106
- _____(2020a) 「Study on Lexical Change after the Revision of High-school Korean & Japanese Language Textbooks」 『日本學報』 122 韓国日本学会 pp.69-102
- _____(2020b) 「현용 한국과 일본의 중학교 1학년 국어교과서 어휘 연구-한국의 중1 자유학기제에 따른 변화에 주목하여-」 『日本學報』 66 韓国日本語学会 pp.101-116
- 이영희(2019) 「명사형 사역동사 연구-영어, 중국어, 일본어를 중심으로-」 『日本近代學研究』 63 韓国日本近代學学会 pp.55-74
- 이옥전·이향란(2020) 「日·中·韓 四字成語의 형태적 비교에 관한 일고찰」 『日本文化學報』 84 韓国日本文化學学会 pp.269-289
- 李羽濟(2019) 「コーパスに見られる「ほんとう」の使用」 『日本語學研究』 62 韓国日本語学会 pp.117-126
- 이유희(2019) 「텍스트 마이닝을 활용한 일본어능력시험 내용 연구-JLPT N3 문자·어휘를 중심으로-」 『日本文化學報』 82 韓国日本文化學学会 pp.5-25
- _____(2020) 「텍스트 마이닝을 활용한 일본어능력시험 내용 연구-JLPT 1급 문자·어휘를 중심으로-」 『日本語文學』 90 日本語文學学会 pp.155-179
- 이윤정(2019a) 「일본 IT분야 어휘분석연구-『基本情報技術者試験』의 10년간 기출문제를 중심으로-」 『日本語教育研究』 47 韓国日本語教育学会 pp.179-196
- _____(2019b) 「기초일본어 교재에서의 명사 어휘 분석 연구」 『日本文化學報』 83 韓国日本文化學学会 pp.143-160
- 이자호(2020) 「대학 주변의 언어경관-韓·日語를 혼용한 음식점명을 중심으로-」 『日本語學研究』 66 韓国日本語学会 pp.135-148
- 李宰錫(2019) 「男性一人称<ボク>と<オレ>のキャラクター属性」 『日本研究』 81 韓國外國語大學校日本研究所 pp.177-200
- 李宗和(2019) 「日本語と韓国語の2人称代名詞-「あなた・きみ・おまえ」の使い分けと韓国語対応のあり方-」 『日本語文學』 84 日本語文學学会 pp.209-230
- 이준서(2019) 「텍스트마이닝을 활용한 'ingestion_프레임'의 한·일 'ingestibles'에 관한 일고찰」 『日本語學研究』 62 韓国日本語学会 pp.127-137
- ____·한경수·노웅기(2020) 「빅데이터 기반 다중언어 문화이미지프레임망 구축 구상」 『日本語學研究』 65 韓国日本語学会 pp.131-142
- 李知殷(2019) 「若者ことば「鬼」の史的変遷」 『日本文化學報』 83 韓国日本文化學学会 pp.161-175
- 이지현(2020) 「특정어휘류에 나타나는 이차적 용법의화용론적 고찰-담화레벨과의 접점에서-」 『日本語文學』 85 韓国日本語文學学会 pp.45-65
- 李忠奎(2019a) 「日本語の複合動詞と韓国語の副詞との 対応関係に関する研究」 『日本語學研究』 59 韓国日本語学会 pp.159-178
- _____(2019b) 「「너무」와「아마리」의 日韓對照研究」 『日本語學研究』 61 韓国日本語学会 pp.91-111
- _____(2019c) 「格パターンによる「～込む」の下位分類-韓國人學習者を念頭に置いた試み-」 『日本文化學報』 83 韓国日本文化學学会 pp.177-199
- _____(2019d) 「「抜く」と「뽑다」의 日韓對照研究」 『日本語文學』 83 韓国日本語文學学会 pp.67-93
- _____(2020) 「「残る・残す」と「남다·남기다」의 日韓對照研究」 『日本語教育』 92 韓国日本語教育学会 pp.95-112
- 이중호(2020) 「에도(江戶)시대 '돌팔의사(藪医者)'의 이미지 형상화 과정에 대한 고찰」 『日本研究』 33 高麗大學校グローバル日本研究院 pp.127-159

- 이하자(2020) 「한·일 '복합동사 대비 단일동사'의 상호교차유형-『겨울연가』·『冬のソナタ』 번역을 중심으로-」 『日本語教育』 93 韓国日本語教育学会 pp.93-110
- 이현정(2019) 「20세기 초 신어의 정착에 관한 한일 대조연구-사전의 등재여부를 중심으로-」 『日語日文学研究』 108 韓国日語日文学会 pp.23-43
- 李讓珍(2019) 「尊敬表現「お・ご~になられる」の使用について-『國會會議録検索システム』を研究資料として-」 『日本文化學報』 83 韓国日本文化学会 pp.201-219
- _____(2020) 「日本語話し言葉コーパスに見られる「させてもらう」と「させていただく」の使用について」 『日本語文学』 91 日本語文学会 pp.39-60
- 林廷修(2020) 「日韓の新聞からみた共通外来語の使用実態について-計量的・文法的側面から-」 『日本語学研究』 63 韓国日本語学会 pp.109-124
- 林禎映(2019) 「中世後期の抄物資料に見られる叙法副詞の特徴について-「いかにも」「かえって」「とても」「ともこうも」「なかなか」を例にして-」 『日本語教育』 89 韓国日本語教育学会 pp.43-52
- _____(2020) 「副詞「たかだか」「たかが」の成立と展開」 『日本言語文化』 51 韓国日本言語文化学会 pp.89-102
- 張愚(2020) 「漢語は本当に名詞として受容されたのか:日本語史における漢語の品詞性をめぐる諸問題」 『日本研究』 34 高麗大学校グローバル日本研究院 pp.249-272
- 장원재(2016) 「現代日本語と韓国語の語彙におけるカバー率について」 『日本語学研究』 48 韓国日本語学会 pp.65-83
- _____(2019a) 「근대 한일 양국의 자순도치 한자어의 비교 연구-병렬코퍼스를 이용하여-」 『日本語文学』 85 日本語文学会 pp.129-151
- _____(2019b) 「병렬코퍼스 활용과 근대 한일 어휘 대조연구의 확장」 『比較日本学』 46 漢陽大学校日本学國際比較研究所 pp.37-52
- _____(2020) 「한일 고빈도 어휘의 특징에 관한 일고찰」 『日本語文学』 88 日本語文学会 pp.179-193
- 장진영(2019a) 「『捨小舟』『정부원』 변안과정에서의 문체 및 어휘 변화」 『日本語文学』 84 日本語文学会 pp.231-248
- _____(2019b) 「어휘화 레벨에 따른 일·영 오노마토피어 대응 양상 분석」 『日本語文学』 86 日本語文学会 pp.115-135
- 全成燁(2019) 「推定のモダリティ副詞と文の事態内容に対する話し手の認知的判断-「どうも」「どうやら」「よほど(よっぽど)」を話し手情報の観点から-」 『日語日文学』 84 大韓日語日文学会 pp.167-186
- _____(2020) 「推測のモダリティ副詞「たぶん」「おそらく」「さぞ」「おおかた」についての一考察-文の事態内容に対する話し手の認知的判断と話し手情報の観点から-」 『日語日文学』 88 大韓日語日文学会 pp.167-186
- 趙恩英(2019) 「「一生懸命に」・「熱心に」の違いについて-『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて-」 『日本文化學報』 83 韓国日本文化学会 pp.221-239
- 千昊載(2019) 「日本の飲食名の統語構造」 『日本語文学』 84 日本語文学会 pp.273-298
- 최경욱(2020) 「메이지의 상상, 번역어의 탄생과 한국 수용-[science]가 [과학(科學)]으로 번역되기까지-」 『比較日本学』 48 漢陽大学校日本学國際比較研究所 pp.401-422
- 최정희(2019) 「일본어 2인칭대명사 'あなた'의 문법화」 『日本語教育』 89 韓国日本語教育学会 pp.67-82
- 崔主利(2019) 「略語の対照-日本国語辞典と若者語を中心に-」 『日語日文学研究』 109 韓国日語日文学会

- pp.157-176
- 韓京娥(2019) 「実例に見る「行く/来る」と「kata/ota」-話し手と到着点との関係に注目して-」 『日本学報』 119 韓国日本学会 pp.75-91
- 한규안(2020a) 「「~にくい」「~づらい」「~がたい」의 의미·용법 고찰」 『日本研究』 52 中央大学校日本研究所 pp.87-110
- _____ (2020b) 「진술부사에 관한 일고찰(1)-「もし」「万一」「きっと」를 중심으로-」 『日語日文学』 86 大韓日語日文学会 pp.205-220
- 韓先熙(2019) 「類義語「気分」「気持」「機嫌」の使用実態について-韓国語日本語学習者を対象に-」 『日本語学』 85 日本語学学会 pp.153-173
- _____ (2020) 「「必ず」「きっと」「ぜひ」「絶対」の使用実態について-韓国語日本語学習者を対象に-」 『日本語学』 84 韓国日本語学学会 pp.91-112
- 韓増徳·金仁炫(2019) 「助字の弁別と造語力について」 『日本語教育』 87 韓国日本語教育学会 pp.109-123
- 홍민표(2019) 「유사친족호칭의 사용실태에 대한 한일대조연구」 『日本語学研究』 60 韓国日本語学会 pp.165-178
- 홍민희·권익호(2020) 「韓國語에 나타난 日本語系 慣用語에 관한 고찰-한국어사전을 중심으로-」 『日本文化學報』 86 韓国日本文化学会 pp.305-327
- 홍영주(2020) 「인지언어학적 관점에서 바라본 한국어 '가다' 동사와 일본어 'いく' 동사의 대응관계」 『日本文化研究』 74 東アジア日本学会 pp.315-332
- 華迪聖(2019) 「日中英3ヶ国語における痛み表現の対照研究-マギル疼痛質問票を資料として-」 『日本語教育研究』 48 韓国日語教育学会 pp.223-237
- 황규삼(2019) 「오노마토피아의 표현기능-상품광고문을 중심으로-」 『日本語教育』 89 韓国日本語教育学会 pp.97-112
- 황영희(2019) 「일본어 어휘능력의 종단적 변화에 관한 계량적 고찰」 『日本語教育研究』 48 韓国日語教育学会 pp.239-253
- 市村太郎(2020) 「語彙(理論・現代)」 『日本語の研究』 16-2 日本語学会 pp.45-52
- 伊藤貴雄(2019) 「「ホームレス川柳」に見る語彙表現と心象風景の一断面」 『日語日文学研究』 108 韓国日語日文学会 pp.129-149
- _____ (2020) 「「受験生川柳」に見る語彙表現と意味的特徴の一断面」 『日本語教育研究』 50 韓国日語教育学会 pp.217-233
- 井ノ上佐織(2019) 「テキストにおける指示詞の使用様態に関する日韓対照研究-新聞社説の分析を中心に-」 『日本学報』 118 韓国日本学会 pp.91-106
- 大谷鉄平(2019a) 「商用的にはたらく「絶賛」について-雑誌記事見出しの事例分析から-」 『日語日文学研究』 109 韓国日語日文学会 pp.27-51
- _____ (2019b) 「流行「後」の流行語「ジュリアナ」「ファジィ」の流通について-死語・廢語研究に向けて-」 『日本語学』 81 韓国日本語学学会 pp.27-52
- _____ (2020a) 「宣伝文にみられる語彙の商用的機能-雑誌記事見出しにみられる「噂の～」の量的調査より-」 『日本文化學報』 84 韓国日本文化学会 pp.291-311
- _____ (2020b) 「流行「後」の流行語(2)「ペレストロイカ」「セクハラ」の流通実態-死後化と定着との対照から-」 『日本語学』 84 韓国日本語学学会 pp.67-89
- _____ (2020c) 「宣伝文に用いられる語彙による商用的作用-雑誌の記事見出しにみられる「ご存じ」の場合-」 『日本語学研究』 63 韓国日本語学会 pp.5-20

- _____ (2020d) 「宣伝文における「アツい」の商用的利用について-雑誌記事見出しの事例分析から-」 『日語日文学研究』 114 韓国日語日文学会 pp.85-109
- 大谷由香(2019) 「複合動詞「~つく」と「~つける」の研究-周辺の用法の特徴を中心に-」 『日本語文学』 83 韓国日本語文学会 pp.45-65
- 高草木美奈(2019a) 「「幸福な/幸せな/ハッピーな」の一考察-被修飾語のうちモノ名詞を中心に-」 『日本語教育研究』 47 韓国日語教育学会 pp.89-106
- _____ (2019b) 「3つの語種「幸福な/幸せな/ハッピーな」の一考察-被修飾語「コトバ名詞」と「ココロ名詞」を修飾する場合-」 『日語日文学研究』 111 韓国日語日文学会 pp.21-42
- 澤田信恵(2020a) 「韓国文学の日本語翻訳テキストにおける〈보다・見る〉の意味領域に関する考察」 『日本語教育』 91 韓国日本語教育学会 pp.51-61
- _____ (2020b) 「韓国語・日本語のやわらかさを表す擬態語の副詞的用法に関する考察」 『比較日本学』 48 漢陽大学校日本学国際比較研究所 pp.323-340
- 鈴木梓(2019) 「現代日本語の接尾辞「-くさい」のモダリティ的可能性-コーパス・小説・ツイッターの用例から-」 『日本語教育』 87 韓国日本語教育学会 pp.97-108
- _____ (2020) 「現代日本語における接尾辞「-くさい」の用法-ヒト名詞を中心に-」 『日本語教育』 91 韓国日本語教育学会 pp.63-74
- 瀬楽亨(2019) 「日本語の若者言葉の理論的分析に向けて」 『日本語文学』 84 日本語文学会 pp.99-116
- 施山緑(2019a) 「特定の人物を指し示す「人」に関する一考察-照応関係と現われ方を中心に-」 『日本語文化』 46 韓国日本語文化学会 pp.15-34
- _____ (2019b) 「普通名詞が特定の人物を指し示す要件-「人」「人間」「大人」を中心に-」 『比較日本学』 46 漢陽大学校日本学国際比較研究所 pp.357-374
- 中坂富美子・李徳培(2019) 「韓日呼称接尾辞「씨」と「氏」の比較-新聞記事の用例を中心に-」 『日本語教育』 87 韓国日本語教育学会 pp.65-79

〈요지〉

어휘 연구의 현황과 전망

2019년부터 2020년까지 2년간 한국의 일본어학계에서 공표된 어휘연구에 관한 논문과 그 성과를 개관하였다. 총 155여편의 관련 논문을 어의, 어구성, 어종, 위상, 통시적 어휘연구, 사회문화적 어휘연구, 일본어교육, 계량적 어휘연구, 어휘 데이터베이스 및 코퍼스 구축의 9범주로 나누어 각 분야의 연구동향을 정리하였다.

9범주 중 유의어와 어종, 위상에 관한 연구가 특히 많았으며, 방법론적으로는 한일대조연구가 활발하였다. 그리고 전기(2017-2018년)에 이어 어휘에 관한 사회문화적 연구와 일본어교육에의 응용을 적극 고려한 연구가 지속적으로 이뤄지고 있음을 관찰할 수 있었다. 또한 어휘관련 논문 중 20%가량이 일본국립국어연구소에서 구축한 현대 문어체 일본어 균형 코퍼스 『BCCWJ』를 연구자료로 활용하고 있다는 점에서 그 영향력을 새삼 실감할 수 있었다. 『BCCWJ』에의 높은 의존도는 비단 한국의 어휘연구에 국한된 것은 아니나, 『BCCWJ』와 기타 연구자료와의 비교연구, 혹은 『BCCWJ』에서는 다뤄지지 않은 언어데이터에 기반한 연구가 향후 보다 성행한다면 헤아릴 수 없을 정도로 방대하고 다양한 일본어를 균형 있게 파악하는데 일조할 것이라고 전망한다.

논문분야 : 어휘론

키워드 : 의미, 어휘구조, 대조분석, 코퍼스, 연구현황

■ 손영석(孫榮奭)

제주대학교 일어일문학과 조교수

freewill1472@naver.com

- 投稿日 : 2020년 12월 31일
- 審査開始 : 2021년 1월 12일
- 審査完了 : 2021년 1월 24일
- 掲載確定 : 2021년 1월 29일